DAY 1



2022年10月9日 (日曜日) 開会 午後1時30分

公開シンポジウム「ライチョウを通して中央アルプスの自然を学ぼう」

開催場所 駒ヶ根市文化会館大ホール



〇司会者(本間香菜子) 皆様、こんにちは。

本日は、第20回ライチョウ会議、公開シンポジウム「~中央アルプスのライチョウ復活を目指して~」にお越しいただきまして誠にありがとうございます。

私は本日の司会進行を務めさせていただきます本間 香菜子と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。 (拍手)

それでは、開会に当たりまして第20回ライチョウ会議 長野県駒ヶ根・宮田大会長 伊藤祐三駒ヶ根市長より皆 様に御挨拶を申し上げます。

〔大会長・駒ヶ根市長 伊藤祐三 演台へ移動〕

〇大会長(伊藤 祐三) 皆様、こんにちは。駒ヶ根市長

の伊藤でございます。

本日は第20回ライチョウ会議 長野県駒ヶ根・宮田大会にお越しいただき、ありがとうございます。

本大会を主催しております駒ヶ根市と宮田村は、長野県南部に位置しております。東に中央アルプス、西に南アルプスを望む伊那谷のほぼ真ん中にありまして、車で西へ10分も走りますと、標高2,956メートルの駒ヶ岳をはじめとする3,000メートル級の山々のすぐ麓、駒ヶ根高原にアプローチできます。高原特有のさわやかな空気は、すぐそこにあります。

また、長野県の中では太平洋側の気候の影響を受けることから、冬の雪の量は少なく、晴天に恵まれる日が多いことも特徴であります。寒さは厳しいですが、空気は澄み渡り、真っ青な空をバックに真っ白に染まった中央アルプスの壮大な景色をほぼ毎朝見ることができる贅沢な地域であります。

昭和42年には中央アルプスに山岳ロープウエーの運行が開始され、しらび平駅から標高2,612メートルの千畳敷駅まで、高低差950メートルを7分30秒で一気に登ることができるようになりました。雲上の世界を気軽に楽しめるようになり、毎年多くの観光客の方に訪れていただいております。

また、ロープウエーの終点であります千畳敷駅の目の前に広がる千畳敷カールは最終氷期に形成されたとされる氷河地形でありまして、国の天然記念物に指定されております。

夏はシナノキンバイやチングルマなど多くの高山植物が咲き乱れるお花畑に、秋はダケカンバやナナカマドなどが紅や黄色に色づいた紅葉の絶景を楽しむことができます。こうした景色を見ながら、駒ヶ岳山頂までゆっくり歩いても2時間もあれば登頂できます。本格的な登山でしか味わえない世界を気軽に体験することができるのが中央アルプス駒ヶ岳であります。



こうした自然に恵まれました中央アルプスには、かつて ライチョウが生息しておりました。今から半世紀ほど前に 絶滅したとされておりましたが、平成30年7月、登山者の 方が雌1羽を確認いたしました。この個体は後に乗鞍岳 から飛んできたということが判明いたします。

これをきっかけに、令和2年度から環境省が中心となり中央アルプスにライチョウを復活させる事業が本格的に始まりました。現地でのケージの保護、動物園へ移送しての飼育、また自然へ戻す、多くの皆さんの御協力で今年の夏には100羽を超える個体が生息していると言われるまでになりました。

こうした御縁や中央アルプスが国定公園化されたこと

も併せまして、本大会の実行委員長である中村浩志先生からぜひ第20回の節目となるライチョウ会議の開催をとオファーをいただき、このたび駒ヶ根・宮田大会を開催することとなりました。

本来でありましたら昨年開催する予定でありましたが、 コロナ禍で延期され今年となりました。こうして開催できましたことを大変喜んでおります。

本大会では、大人の皆さんだけでなく、次代を担う世代、特に子供たちに分かりやすい内容での講演をお願いいたしました。ライチョウを通して自然環境の大切さや地球温暖化によって生物が受ける影響などを学んでいただけたらと願っております。



本大会を通じまして、地元の皆さんの地域への愛情がより深まり、県内外からお越しになった皆さんには、この土地の景色や空気、自然環境のすばらしさを知っていただき、再び訪れたいと思っていただけることとなれば大変ありがたいと思います。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。(拍手)

- **〇司会者(本間香菜子)** ここまで大会長 伊藤祐三より皆様に御挨拶を申し上げました。 ありがとうございます。
- **〇大会長(伊藤 祐三)** ありがとうございました。(拍手)

〔大会長・駒ケ根市長 伊藤祐三 演台より移動〕

○司会者(本間香菜子) それでは、続きまして今回の大会の実行委員長で、一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所中村浩志より、 皆様に御挨拶を申し上げます。

〔大会実行委員長 中村浩志 演台へ移動〕

O大会実行委員長(中村 浩志) 皆さん、こんにちは。

ライチョウ会議議長を務めており、また今回の大会の実行委員長を務めております中村です。ライチョウ会議というのは2000年に発足した会です。長野県大町市にある私立大町山岳博物館が50周年を迎えるに当たって、長年飼育してきたライチョウを今後どうするかを含めて広く意見を求めながらライチョウの調査、保護を進めていきたいということで、2000年に発足した会です。最初の一、二年は大町で開催しましたが、その後はライチョウが生息するいろんな県で大会を開催してまいりました。前回の第19回大会は、岐阜県の岐阜大学で開催いたしました。

2020年から環境省の中央アルプスにライチョウを復活させる事業が始まりました。ですから、第20回大会はぜひ中央アルプスの麓で開催したいということで宮田村さんと駒ヶ根市さんに相談したところ、大変快く引き受けていただきました。今年は、中央アルプスにライチョウを復活させる事業が本格的に始まって3年目ですが、予想以上に順調に進んできております。そのことは今日この後の講演の中で小林君のほうからお話しいただけると思います。

日本のライチョウというのは大変貴重な存在です。本州中部という世界最南端の地にぽつんと分布する隔離集団です。しかも、北極周辺の集団とは異なり、高山にすむライチョウです。それから、日本のライチョウは、世界で唯一、人を恐れないという特異な集団です。日本には古くから山岳信仰がありましたから、日本のライチョウは、日本人にとって神の鳥であった。だから、世界で唯一、人を恐れない存在です。

ライチョウ会議が発足した当時の目標は、貴重なライチョウが絶滅しないように多くの方が協力してライチョウの調査とそれに基づいた保護活動をやっていこうということで、これまで19回の大会を開催してきました。今回の開催に当たっては、駒ヶ根市さん、それから宮田村さん、それから大町山岳博物館――ライチョウ会議の事務局ですが――そこが中心となって大会実行委員会を組織し、これまで3年間をかけて計画と準備を進めてきました。それから、長野県さんなど、非常に多くの方や組織の協力を得て、ここに第20回の大会を開催することができました。この場をお借りしまして、私からお世話になった皆さんに心からお礼申し上げたいと思います。

今回の大会は、今日はシンポジウム、明日は専門家会議です。そして3日目は現地観察会です。ぜひこの機会に日本のライチョウについてより深く知っていただいて、大会を通して絶滅しないように保護するという協力の輪が一層広がることを心から期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

〔大会実行委員長 中村浩志 演台より移動〕

〇司会者(本間香菜子) 大会実行委員長 中村浩志より御挨拶を申し上げました。皆様が開催を待ちわびていらした中央アルプスの麓の町でのライチョウ会議です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、伊藤大会長、中村大会実行委員長には御降壇をいただきましょう。

ありがとうございました。(拍手)

〔大会長・駒ケ根市長 伊藤祐三 降壇〕

〔大会実行委員長•一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所 中村浩志 降壇〕